

OBIカリキュラムのご紹介



副学院長 藤原導夫

OBIにはお茶の水教室に通って直接に授業を受けるタイプと自宅においてインターネットや送るのではなくるかと思っております。

信教育タイプの二種類の受講システムがあります。これまでのOBIの働きは地テムが中心となっていました。これまでは主に首都圏の諸教会が中心となっていました。徐々中心となっていました。しかし後者も拡充しつつあります。また二年前から通信教育システムだ通信教育過程の卒業生は出てはを新しく設けましたことにより、



これからは更に国内外にわたる広範囲の諸教会にお仕えする道が開かれていくのではなからうかと思えます。すでに新潟県、神奈川県、茨城県、愛知県、シンガポール在住の方々などが学んでおられます。IT時代の利便にあやかっ津々浦々にまで行き渡り、各地の教会におけるニーズに添えていささかでもお役に立つことができるようになればと願っております。

OBIのカリキュラムは聖書科が中心ですが、音楽科も設けられています。そこでは音楽や奏楽に関する実際の学びやレッスンがなされており、教会における讃美リーダーや奏楽者の養成・訓練に役立つとして喜ばれています。

毎年7月にはサマー・スクーリングが恵みシャレー軽井沢にて二泊三日で行われています。最近6年間にわたるテーマと講師の方々はこの通りです。「黙示録講義」生島陸伸先生、「現代に生きるキリスト者の霊性」中澤啓介先生、「共に生きる」堀肇先生

生、「黙示録の七つの教会」山口昇先生、「教会生活の深まりを求めて」野田秀先生、「歴史は語る」横山武先生。一般公開ですのでOBI事務局に申し込んでいただければどなたでもご参加いただけます。

隔年ではありますが、春には聖書の世界研修旅行も行われております。聖書の地理や歴史に造詣の深い飯島勲先生を団長として一昨年はギリシャ・トルコの地を巡り、今年はエジプト・ヨルダン・イスラエルを巡りました。これもOBI学生を中心としつつ一般にも公開されています。聖書の世界の現場に立つということが、参加者各自にはかけがえのない体験となっているようです。

以上、OBIの最近のカリキュラムについて簡単ですがご案内も兼ねてご報告させていただきました。何とぞ、これからお祈りとともに、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

スクーリングの恵み

『歴史は語る』講演要旨

今年も7月9〜11日まで軽井沢恵みシャレーにおいて第12回夏季スクーリングが開催された。今年は教会史担当の横山武師を講師としてお迎えし、「歴史は語る」と題して語っていただいた。熱の入った講義に新しい発見をし感動、感謝の時になった。以下は講演の要旨。

●1回目コンスタンチヌス帝をめぐって

殉教者の血が教会の種子であるとのテルトゥリアヌスの言葉は、当時のキリスト信者にとって恐るべき現実となった。ようやくコンスタンチヌス帝の治世の時、礼拝の自由を獲得した。313年、彼とリチニウスはミラノの勅令を出して、礼拝の自由を保障した。没収されていた教会財産を返還し、国家が教会を補助し、聖職者には公の義務を免じ、うらない

を禁じ、「太陽の日」(日曜日)を安息と礼拝の日と定めた。さらに395年キリスト教は帝国唯一の公認宗教と認められた。

●2、3回目 中世修道院をめぐって

迫害の時代からキリストしか信じないといけない時代になった。キリスト教がローマ国教として認められることにより、教会に来てクリスチャンとなることのほうが有利になった。教会と社会の動きが緊密になることによつて、世俗化を嫌う人たちが純粹な信仰を全うしようと、人里離れたところで共同生活を行なうようになった。これが修道院の始まりである。修道院は学問を保存した。写本を筆写し、後世のため聖書の保存、キリスト教文書の写本をした。ベネディクトゥス戒律では、(清貧・純潔・服従)修道士は神のみこころに対する服従として何物も持つ

べきではないとされた。使徒の働き42のように、すべての物を共有する徹底した生活を行った。また、現代の農事試験場のような役割をして農業の方法の改良を教示した。修道士は道路をつくり、穀物や家畜を改良した。近くの農夫たちは修道士の技術を見て、それを手本とした。本当に神に仕えるとは、神のみこころを知って悔い改め、献身の思いを新たにし従っていく事であると結論された。

●4回目十字軍の遠征がなぜ起こったか？

コンスタンチヌス帝の頃より、西ヨーロッパの人々に聖地巡礼が行われていたが、パレスチナに着くや否や迫害にさらされた。その上ビザンチン帝国が回教徒に攻撃されたため西ローマに助勢を求めた。こうしたことから聖地奪回、キリストの墓を守れという動機が、十字軍の遠征となった。十字軍は西ヨーロッパで政治的、社会的に重要な成果を上げた。

●5回目ルネッサンスと宗教改革をめぐって

ルネッサンスは十字軍の結果起こった。イタリアの都市から古代を模範とするルネッサンスの運動によつて西欧の文化は大きく発展した。ルターはローマ人への手紙17を読んで、キリストを信じる信仰のみが人を神の前に義とすることだと確信するに至った。テツツエルは、免罪符を買った者は悔い改める必要はない、免罪符はあらゆる罪の完全な赦しを与えるものだと言張した。ルターは人々がこの非道な制度によつて詐欺されるのを憤り、公然抗議することを決心した。

そして1517年10月31日、95箇条をウイッテンベルク城内の教会の扉に掲示した。

(本科2年生・奥津 晃)

軽井沢セミナーの恵み

軽井沢は霧に包まれ、鬱蒼と繁った木々が霧の中に沈んでいました。この静かなたたずまいの中で、横山武先生による5回の中世教会史を学び、早朝のデボーションで感動的なメッセージや証しをいただいたことはまことに幸いでした。

中世というイスラム圏は華

やかなのに、キリスト教圏は暗黒時代で異端審問、魔女狩りや免罪符、悲惨な宗教戦争といったキリスト教史上の汚点ばかりが強く印象に残っていました。

そのような私にとって、キリスト教が迫害された時代から晴れてローマ帝国の国教に認められたいきさつ、修道院と社会との関わりや修道士の日常生活を興味深く学ぶことができました。また十字軍遠征が純粋な信仰に基づくもの

であったのはうれしいことで、後に異文化を理解しあつて異教徒と共存できたことは、キリストのみこころにふさわしいと思います。先生の豊富な知識による裏話を交えての講義は新鮮で楽しいものでした。この十字軍の遠征が社会変革をもたらし、ルネッサンスの花を咲かせ、宗教改革を实らせる端緒となったのは神のご計画の一端であると思われました。

先生方や兄弟方とおいしい食

事をともにし、夜のひとときは喫茶室で親しく語らい、自由時間には霧の霊場の池や旧軽井沢を散策したことも楽しい思い出となりました。

この3日間、有益な学びをし、信仰の友との楽しく深い交わりを持つことができたことは大いなる恵みでありました。

(本科3年生・加茂康一)



学窓トピック

聖書科・ネットコース・音楽科

◆7月9日～11日の日程で、今年も軽井沢恵みシャレーでサマースクーリングが開催されました。今回は、横山武先生（東京中央バプテスト教会牧師）を講師として迎え、「歴史は語る」をテーマに、初代教会以降宗教改革までのキリスト教の歴史から語っていただきました。参加人数54名、有意義な夏の一時となりました。

◆「学院案内」が発行されました。聖書の学びに興味のある友人、知人、あるいは所属教会、団体にお茶の水聖書学院の働きを知っていただくためにも配布したいと思われる方々は、ぜひ事務局 (office@obi-net.com または 03-3296-1005) までご連絡いただければ幸いです。

◆かねてより要望のありました図書貸し出しを後期以降より開始できるように準備を進めております。図書貸し出しの手続きはバーコードリーダーを使って、ご自分でできるようになります。OBI卒業生と在学生にはそれぞれ、会員証と学生証を発行いたします。

ドから学生情報を読み取り、さらに書籍のバーコードから書籍情報を読み取り、貸し出し、予約などの手続きが行えるようになります。なおこの準備（簡単なラベル張り、書籍情報書き取り、入力など）のためにボランティアスタッフを募集しておりますので、ご協力できる方はご連絡いただければ幸いです。

◆10月13日（土）午後1時～5時、教会音楽科主催による第8回「教会音楽デー」を開催いたします。今年も飯島千雅子先生を講師にお迎えし、「詩篇を歌う」というテーマで、学びと演習のひとつを持

ちます。クリスチャンの方であればどなたでも参加できます。詳しくは事務局まで、お問い合わせください。

◆10月27日（土）午後1時半～3時の予定で、OCCとOBIの共催コンサートを実施します。ゲストに、チェロ奏者のポーマン氏をお招きします。チケット制ですので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

▼聖書科卒業予定者の卒業研究指導が始まりました。ネットコース在籍の方は、修得単位数20単位以上から卒業研究指導を申し込むことができます。進め方について相談のある方はぜひどんな小さなことでも、お気軽に教務の福井までお問い合わせください。
(fukui@obi-net.com)

2007年度後期生募集 (10月1日～2月1日)

同時受付中!

- ・聖書科：本科/専修科/特修
- ・教会音楽科/音楽一般コース
- ・ネットコース：管理運営/総務

開講クラス

新約其書講義/生新其書の花型と解説/音聖書講義
教会史/ルカ福音書/新約学入門/神学思想史
ライフサイクルと人間/ローマ書/ヘブル人書

* お問い合わせ: TEL:03-3296-1006 FAX:03-3296-4641 E-mail: info@obi-net.com

主と教会に仕える 同窓生たち⑦

第1期生 川村和臣

「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人として自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」(Ⅱテモテ二15)

学院を卒業して早、14年の月日が経ちました。卒業後、牧師としての召命をいただき、教団の神学校で学ぶ機会が与えられました。その後、九州の幾つかの教会での奉仕を経て、現在、埼玉の越谷教会に任命され、7年目になります。同時に教団の奉仕も与えられ、計らずも週に一、二度はOCCに通うことになりました。そこで母校であるOBIが変わらず主の働き人が整

えられ、送り出される場として継続されていることを見ることができるとは、本当に嬉しく思います。また、先日は初めて同窓会に出席することができ、出席された方々の姿に主の御業を見ることができ感動し、また自分自身がその一人であることに主にある誇りを覚えました。

私が入学したのは救われてまだ1年目の頃でした。当時は今後の生涯にいかにか用いるべきかお祈りしている時でした。そこでその年に始まったOBIを紹介されたのです。

学院での学びはとても楽しいものでした。学院の働きは始まったばかりであったこともあり、すべてが新鮮でした。恵みに溢れた先生方による授業、共に学ぶことができた兄弟姉妹との交わりはとても貴重なものでした。特に救われ

て間もない私にとって、様々な教会の中心的な方々であり、またベテランクリスチャン(?)の方々に囲まれてのクラスは良い経験でした。自分のクリスチャン常識のなさに恥ずかしい思いをしながらも貴重な体験でした。ご高齢の兄弟姉妹や、遠方から新幹線を通われる方などにも励まされました。軽井沢での研修会、レポートや卒論との取り組みなども良い思い出です。そして天に帰られた本田弘慈先生の謙遜で情熱的な姿はいまでも忘れることができません。

冒頭のみことばはOBIの目的として語られていたものです。学院や教団の神学校で学んでいる時も、そして牧師として奉仕させていただいている現在も、私の目的、目標となっています。このみことばを思い起こし、触れていく

度にOBIに入った時より成長の少ない自分を思い、もう一度、初心に返ることの大切さも学んでいます。願わくは少しでも、このみことばが自分の生涯の中で成就され、主のために前進することができるようお祈りしています。



中年期に振り返りを

本学院講師 堀 肇

●自分への問いかけが

しばらく前、親しくしている友（牧師）と話している時のことでした。彼はこんなことを語ってくれたのです。

「私はこの頃、自分は今まで一体何をしてきたのだろうか、この年になって改めてそんなことを考えるようになった」と。

彼は自分の職務に忠実であり、ライフワークともいえるべき専門分野においても実績を積み周囲からも良い評価を得ている人です。また優れた信仰の指導者でもあり私が尊敬している友の一人です。

このような自分への問いかけが、これといった社会的役割がなくなってしまうと人生の晩年に起こるのは普通にあることです。まだ現役で非常に忙しいスケジュールを前向きにこなしている人から出てきたところに大きな意味があると思います。一般に人生の夏から秋（中年期）にかけては、積極的に仕事に取り組

み、その成果も期待できる充実した時期ですが、彼はそうした実りの季節に自分の人生を振り返っていたのです。私は彼が自分の人生の旅・たましいの旅というものをよく見つめることのできる人であると思いました。

●「人生の正午」には

実はこのような「振り返り」は私たちのライフサイクル（人生周期）において、とても重要なことなのですが、中年期（40～65歳頃）というのは仕事がどんなに忙しくても、それをやり続けてしまいうようなところがあり、したがって自分の人生を振り返る余裕もないのが現実ではないかと思います。本来ならこの時期は人生の折り返し地点ですから様々な意味において転換点ともいえるべき所に立っているという認識が必要なのですが、体力や気力などに自信があると、どうして

かそれに気づかず、ひたすら「夏」のままの生活を続けようとする傾向があります。夏に実現できなかった願望にこだわりのつづき、価値観や物の見方を変えられない人も意外に多いのではないのでしょうか。

C・G・ユングが中年期を「人生の正午」と呼び、それまでの人生の見直しの必要性を強調したことはよく知られていますが、この「正午」というのはとても示唆的な譬だと思えます。正午には頭上を照らしていた太陽の位置が変わり、影の向きも逆になり始めるように人生も後半期に入ったら、それまでの生き方や価値観の転換をしなくてはならないということなのです。これは新たなアイデンティティを形成するわけですから「危機」でもあるわけです。

●「実り豊かな敗北」も

しかし私たちはそのような危機を経てより統合された自分というものを獲得し、人生の安定期に入っていきます。ある人はこれを「アイデンティティの再体制化」と言っていますが、人はこのような経験を通して、真に自分らしい創造的な心の在り方を得ていくのです。つまり「本当の自分」になっていくということではないでしょうか。これは少し分かりにくいかも知れませんが、言い換える则自分というものを粉飾したり防衛したりして「我ならざる我」を生きているのではなく、自分の存在の深みにおいて納得できる本来的な自己を生きるようになっていくことではないかと思ひます。

もつともこういう内面的な意識を誰もが同じように持つてゐるわけではありません。しかし中年期に訪れる肉体的衰えや思ひがけない病氣、また結婚生活や仕事などを巡る諸問題や挫折に直面しますと、こうしたテーマを考えざるを得なくなつてきます。実はその時が方向転換の機会なのです。多くの場合、より内面的

なものに価値を見いだすようになっていくように思ひます。P・トウルニエは『人生の四季』の中でこんなことを述べています。「青年時代には私たちは成功とはただ進歩とか何か積極的なものであると考えていますが、年をとると、成功より実り豊かな敗北というものがありうるし、自分を一層豊かにしてくれる断念というものも存在するということを発見できるようになります。」

この「実り豊かな敗北」という認識は危機に直面して人生を振り返り、新しい価値観に目が開かれる時に現れ出てくる心の変化ではないかと思ひます。詩篇の作者は、「いにしえの日々を思ひ起し、あなたのなさったことをひとつひとつ思ひ返し」(新共同訳・一四三五)と語つていますが、この「思ひ返し」、つまり主にある「振り返り」は私たちが真の意味で実り豊かな「秋」へと導いてくれるものではないでしょうか。

【堀肇師プロフィール】

鶴瀬恵みキリスト教会牧師、お茶の水聖書学院講師、ルーテル学院大学文学部非常勤講師。NHK 学園聖書講座講師を務める。また臨床パストラル・カウンセラーとしても活躍。著書に『こころの散歩道』『たましいの慰めこころの余裕』(いのちのことば社)『こころにやさしく』(CLC 出版) などがある。

OBI 会計報告

第7期上半期会計報告

主の御名を賛美いたします。
OBIの第7期上半期5ヶ月
(2007年3月1日～7月31日)
が経過しましたので、ここに報告いたします。

この上半期においては、コスト削減活動が定着しつつあります。しかし、新規事業のネットコースの事業化が当初計画に対して、いまだ軌道に乗っていないのが不安要因の一つといえます。さらなるサービスの充実と普及活動を通じて、1人でも多くの受講生の獲得に努力してまいり所存です。一方、聖書科、音楽科では、着実な

展開がなされていると考えることがゆるされるでしょう。7月に開催された夏期スクーリングでは、約50名の参加者に恵まれ感謝でした。さらに、今秋にむけては音楽コンサート開催等も企画されております。また、OBIの教室と事務所・教師室が2階に統合され、より利便性が向上したことに感謝いたしております。このように、OBIは信徒のための聖書教育機関として、着実に整備がなされつつあることに、こころより感謝する次第です。

教員・スタッフが一致して、OBIの学院としての充実によりいっそう努力してまいりますので、今後とも何卒、関係各位の御

指導、御鞭撻の程、御願い申し上げます。

◎OBI後援会献金御芳名録

▽後援会維持会員

有田貞一 有田美栄子
飯島多稼夫 猪狩友行
小野沢恵子 金本悟 木下順子
国東恵子 窪井節子 窪田淳子
小林喜久雄 斉藤とし子 佐藤敬
佐野謙次 佐野寿美子 須子都
関節子 世良田湧侍 田中恵子
中川和代 浪井弘子 西満
平松庸一 福井誠 藤原導夫
増尾善文 増田誉雄 松岡常子
三浦喜代子 三浦秀弥
宮本三枝子 目崎由紀子 森登
森本皐 依田和子

▽後援会協力会員

(個人) 植木朋子 近藤はるみ
羽鳥明 脇坂勇

▽夏季特別献金(個人)

三浦秀弥 久保田庸子
梅沢近子 阿部幸平 鈴木芳宣
須子都 吉田加代子 玉松陽子
中島總一郎 西満 安藤谷子
日名富子 米田由起子 滝田幸恵
増尾善文・邦子 木下寿子

加茂康一・早苗 山本しづか

内田光子 大渕セツ 宮内芳枝

国東恵子 黒沢すぎの 窪田淳子

森本皐 三浦喜代子 伊藤洋子

伊地智恵子 脇坂勇

国松裕子 宮本三枝子 増田誉雄

吉村瑠美子 飯島多稼夫

猪狩友行・多佳子 鈴木ますみ

加賀谷紀子 堀口容子 倉内一寿

平田仁美 杉山礼子

(団体)

腰越独立教会

市川北バプテスト教会

OBI感謝献金

(個人) 加賀谷紀子

(団体) 鶴瀬恵みキリスト教会

夏季スクーリング感謝献金(個人)
藤原智子 横山 武 三浦喜代子

◆今号の献金者リストは2007年5月1日～2007年8月31日までの間に 献げられた方々です。

OBI 第7期収支報告

2007年3月1日～2007年7月31日

当期収入	
授業料収入	3,350,717
行事収入	968,100
献金収入	4,014,166
助成金収入	1,250,000
その他収入	18,634
後援会献金	2,100,000
収入計	11,701,617
当期支出	
学事支出	5,119,250
行事種出	968,876
経費支出	5,396,120
その他支出	196,819
支出計	11,681,065
当期中間収支差額	20,552